例えば、人々がそれまで気付かなかった食材の新たな味わいを見いだし、
豊かな食文化を育んできたように、
また、想いや経験を分かち合う方法が大きく広がり、
これまでにないつながりや文化が生まれたように、

私たちは、新たな発見や創造をきっかけとして世界の見方を変え、
そのたびに新たな知と可能性を切り拓いていく。

そして、このような発見と創造が、
他者との出会いや対話のなかで共有され、互いの視点や経験が交わるとき、
多様な価値観や立場の違いをこえて、
共に未来社会を切り拓く新たな叡知へとたどりつく。

発見と創造がもたらす「新たな知」

2026年4月、東京大学は日本武道館で挙行された学部入学式において、約3,000名の新入生を迎えました。

式辞を通して藤井総長は彼らにまず、身近な暮らしや歴史の中に、人々の生活様式や価値観を変え、新たな文化や産業を育んできた数多くの事例が存在することを紹介しました。さらに、「0」の発見が、数学や科学の発展を支え、人類の可能性を広げたように、新たな発見と創造が、世界を捉える座標軸を広げ、知の創造の連鎖を生み出してきたことを説明しました。また、人間が自身を基準とした視点と、世界全体のなかで自分を捉える視点との間を行き来しながら世界を理解していることを説明し、自らの中にある「原点」と「座標軸」を意識的に選び直し、ときに組み替えることで、世の中で用いられている物差しを相対化し、自らの言葉で世界を捉え直すことの重要性を伝えました。

そして、多様な価値観や経験を持つ人々との対話を通じて、互いの視点や座標系を行き来しながら新たな知を創造してほしいと語り、一人ひとりの好奇心と想像力、そして情熱が、これからの世界に新たな知をもたらす「原点」となると激励しました。

2026年度東京大学学部入学式 総長式辞はこちらからご覧いただけます
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message2026_01.html